
フェイト？ちゃんの転生記(SAO編)

雪海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フットボールちゃんの転生記（SAO編）

【著者名】

202332

【作者名】
雪海

【あらすじ】

この物語はソードアート・オンラインの一次創作です。
二次創作で且つ作者の技量が低いため、原作との矛盾、
キャラ崩壊などが起きる危険性があります。もちろん
矛盾やキャラ崩壊などはあまり起きないよう気を付け
ますのでそこまでは気にしなくて大丈夫……のはずです。
ストーリーとしては原作沿いでいく予定です。

以上の事を踏まえた上で本編をお楽しみ下さい。

それは全ての始まりなの？（前書き）

SAOの一次創作などを見ていたら何となく書きたくなってきたので、

思わず書いてしました。

別作品でRewriteの一次小説も書いているので、よかつたら是非見て下さい。

ちなみに容姿がなのはのキャラになっていますが、

SAO編では容姿以外では特になのは要素は出ませんので、なのはを見た事が無いという方も安心して読んで頂いて大丈夫です。

それは全ての始まりなの？

「あれ？ ここはどこ？」

目が覚めると何故か知らない天井が見えた。
慌てて周りを見渡してみると、明らかに自分の部屋とは違つ。
どうやらどこかのアパートの一室みたいだ。

「私は確か家で寝たはずなんだけど……」

一端落ち着いて何故こんな状態になつたのかを思い出してもよつ。
昨日は……あれつ？ 何してたんだっけ？
昨日の事を思い出そうとするも、何故か靄がかかつたように思いだ
せない。

それなら、もう少しひと前の事をと思つたが、同じよつて思いだ
せない。

……といふか自分の名前すら思い出せなかつた。

うーん。自分の事以外だつたら大体思いだせるんだけどなあ……。
どうやらここ一週間くらいの記憶と、
自分に関する事が思いだせないみたいだ。

記憶喪失ってこんな症状だつける？

「はあつ……まさかリアルでここは何処？

私は誰？ みたいな状態になるなんてね……」

普通なら取り乱したりするところだろうけど、私は何故か冷静だつ
た。

もしかして冷静沈着な性格だつたのだろうか？

まあ記憶は戻らないみたいだし、とりあえずこの部屋に何か

手がかりでもないか探してみよつかな。自分の事が全く分からぬ以上、ここが私の部屋って可能性もあるわけだしね。

さて、探索を終えた結果妙な手紙を発見した。
あからさまに怪しいけど、手掛けりはこの手紙くらいしかないし…。

ま、いつか。読んじゃおつ。…ん？ 白紙じゃない。
と思つていたら突然文字が浮かび上がってきた。

『じめんなさい 間違つて殺しちゃつた』

「はつ？」

『えーと、本来ならあなたは死ぬ運命ではなかつたんだけど
うつかり間違つて殺しちゃつた 代わりに色々と特典を
つけて転生させて上げたから許してね
まあ自分が死んだなんて簡単には信じられないだろうし、
試しに外に出てみてよ』

一体何この手紙は。私が死んだなんてばかばかしい…
ばかばかしいけど、今はこの手紙しか手掛けりはないし、
それに一旦外も確認してみるべきかな。

という訳で、部屋の入り口に移動し、ドアを開けてみる。

「へつ？」

外を見ると、真っ白な空間がどこまでも広がつていた…
ばたん、と一丁ドアを閉める。

「落ち着きなさい私。今のはきっと幻覚に違いない…」

「うーー、はーー、と深呼吸を数度繰り返す。

「よし、今度は大丈夫

再びドアを開ける。

するとやはり目の前には真っ白な空間が広がっていた。
ばたん、と一回ドアを閉める。

「ジックリ?」

私自身違つと感じてはこるが、そう言わずにいれなかつた。

「まあ確かに外に出たら明らかに異常だつた訳だし、
もう少しあの手紙を読み進めてみましょう」

『さて、外を確認して頂いたのならば、今が異常事態だといつことは
認識できましたね。まあ認識して頂いた、という事で話を進めま
す。

先ほど特典付きで転生下さいました、特典の内容としましては、
魔法少女リリカルなのはのフロイトの姿と能力です。どうやら
あなたが生前好きだつたようですが、今回の特典とさせて頂き
ました。

まあ姿に関してはバスルームに鏡がありますので、そちらで『確認
認下さい』

え!/? 本当に?

とうあえず騙されたと思つてバスルームの鏡で見てみると、

本当にフュイトの姿になっていた。色々とおかしな事が続いているけど、これは素直に嬉しい。やっぱりの中ではフュイトが一番だよね。

一応確認は終わったので、もひ一度手紙の前に戻る。

『姿の確認も済んだよつですね。ちなみに一つ謝らなければならぬ事があります。一番最初にこの手紙に文字を書き込んでいた馬鹿天使があなたを殺してしまった張本人なのですが…』

何か途中で筆跡とかが変わったと思ったら、書く人が変わったのか。

『そつこつ』とです

「うわっ…? 心の中で思つた事に返事があつたよ…?」

『まあ私は神ですので、読心くらいはこなせます。これも手紙といつ形を取つていますが、実際はリアルタイムで書いていますからね』

神様だつたんだ…。

まあそれはいいとして。

「えーと、それなら普通にお話した方が早いのでは…」

『いえ、それがそういう訳にもいかないのです』

「どうこういとですか?」

『私たち神や天使といった存在は、通常、人間には見ゆることができません。

なので、少し手間がかかりますが、こうやって筆談のよつたな形でお話をしているわけです』

「それはお手間をかけてしまって申し訳ありません」

『いえ、いらっしゃうちの子が迷惑をかけてすみませんでした。あの子は後できつちつ叱つておきますので』

「それで、転生の特典については分かったんですけど、リリは何処ですか？」

もしかして精神と時の部屋とか？』

真つ白空間が広がっているといつ状態が似ていたので、違つとは思つたけど言つてみた。

『惜しいですね』

え？ 惜しいの？

『リリはあなたの精神世界です』

へえー、そうなんだー。

『あまり驚きませんね』

「何かもつ色々な事が起こりますので、多少の事では驚かなくなつたみたいですね」

『 そうですか、では次の説明に移らせてもらいますね』

「どうぞどうぞ」

『 次に能力についてですが、これは、現時点では素質があるというだけで、アニメやマンガのフロイトのように魔法が使えたりはしません』

「まあそれはそうですよね」

『 というかいきなり魔法とかが使えたら怖い。』

『 ……あなたは珍しい人ですね』

「へっ？ 私何か変な事でも言いましたか？」

『 いえ、稀に天使や神のミスであなたのような立場の人が出てくるのですが、 やれもっと能力をよこせだのなんだの、とにかく我が侶な方が多いので』

「 はあ、それは大変そうですね」

『 神様つていうのも中々大変みたいだ。』

『 そりなんですよ…。まああまり度が過ぎて我が侶な方にはそのまま生まれ変わつてもらつていますけどね』

……セーフ。

『まああなたはその点問題なさそうですね。

…と雑談はこのくらいにして本題に入りましょう』

お、ついに本題が始まるみづだ。

『通常ですとこのまま異世界に行つてもひつのですが、あなたの場所
じひらの//スで死んでしまわれた訳ですし、せひご追加で特典を
『えまわ』

それはありがたいです。

『では、じひらのパソコンをじご覧ください』

そう文字が浮かび上がると同時に、手紙の横にノートパソコンが出現した。

えーとなになに、フロイド・テスター・ロッサ、特殊技能なし、
未使用ポイント1000、総獲得ポイント1000
フロイドは名前として、今のところは特殊技能なしか。

その下にあるポイントってこのは何だらう。

『それが追加の特典ですね。普通最初は0ですが、
特典ということでお1000ポイントサービスです』

「そう言われましても、1000ポイントってこのやう少ないの
や」

『そうですね。では未使用ポイントの部分をクリックしてみてください』

そう言われた（書かれた）ので、素直にクリックしてみる。

するとそこにはスキルの一覧と、必要ポイントが表示された。表示されたのはいいんだけど……。

「え~と、多いですね」

多すぎる。ページ内にびっしりと書かれていて、とても数百程度では収まらない程の数だ。

『ええ、自由度があるのが売りですから』

なんの売りかは聞かない方がいいかな。

『ちなみにスキルはぴったり一万個あります』

多つ！ あつても数千単位かと思つたら、文字通り桁が違つたよ。

『まあそつ氣を落とさず』に、大は小を兼ねるともいいますし、ここでは

時間の経過もないですから、後悔しないよう、じっくり選んでください』

「分かりました」

『あ、後の細かい説明についてはそのパソコンで参照できますので。分からぬ事についてもそのパソコンから質問できるよ』になつて いるから。では、私は他にもやる事があるから、そろそろ失礼しますね』

「お忙しい中わざわざあつがとつぱりあこました」

『……本当、珍しいくらい謙虚な人ですね。』

そうかなあ？ 別にこの神様？ がミスをしたわけでもないんだし、やつぱり田上の人に対する最低限の礼儀は必要だと思うんだけど…。ま、実際家族の事とかはちょっと気になるけど、死んでしまったものはしようがないし、せつかくのチャンスをふいにしないよう、じっくりと説明を読むとしますか。

それは全ての始まりなの？（後書き）

主人公設定

マンガやアニメ、ゲームが大好き。二次小説もよく読む。但しチートはあまり好きではない。

死因は分からぬけど、馬鹿天使に間違つて殺されて転生？ することになった。基本的に樂觀論者で、もう天使のことも恨んでいない。むしろ色々と能力をもらえて、逆にラッキーみたいな気分。家族や友人とはあまりうまくいっていなかつたようなので、あまり元の世界には未練がない。

まさかの後書きでの主人公紹介となりました。

ちなみに、記憶についてですが、どんなアニメやゲームが好きだったかといったようなことは覚えてます。自分がどんな性格だったかとかは覚えていません。何とも都合のいい？ 記憶喪失ですが、まあそういうものだということで納得してください

新たなる世界への旅立ちなの（前書き）

主人公が今回取得したスキル
（）内は必要ポイントです。

不老（500）

年を取ることがなくなる。

肉体の最適化（500）

常に肉体が最適化される。

具体的には、睡眠、食事が必要なくなる。

傷の直りが早くなる、魔力の回復が早くなるなど。

傷の直り、魔力の回復については、通常の倍程度の速度になる。

自動蘇生

死んでしまった場合に自動で蘇生し、マイルームへと帰還する。
一度使用するとスキルが消滅するため、ポイントを使って取り直すことになる。通常は取得に1000ポイントかかるが、初回に限り
ポイント無しで取得できる。

新たな世界への旅立ちなの

「さて、それじゃあ早速異世界に旅立つとしますか」

神様？ とのやり取りも終わつた後、スキルの確認やら今の状態の詳細な確認やらをしていたら、けつこうな時間かかつてしまつた。とりあえず色々調べたり聞いたりして分かつたこととしては、

1・私が行けるのは異世界（マンガやゲームの世界）であるということ

2・異世界では基本的に原作通りに物事が進むということ

3・異世界に行くと、区切りのいいところまで行かないといこの部屋には戻つて来れないということ

4・異世界での行動によってポイントが貰えるということ

1については、私の元居た世界には戻れないということらしい。まあフェイトの姿で戻つても色々と苦労しそうだけど。

2については、私がどんな行動を取らうと世界の修正力？ とでもいうものが

働いて、原作から外れる事がないらしい。まあ私は基本的に原作ブレイクとか

はあんまり興味ないし、むしろ原作を外れると悲惨な結果になるゲームや漫画

の方が多こと思つので、これは普通にありがたい機能だ。ちなみに

基本的のこと

いつのは、ポイントを100支払つと世界の修正力？ を無力化できんじるしこ。

まあポイントの無駄だし、そもそもポイントが残つてないのでやらないけど。

3については、物語の途中でこの部屋には帰つてこれないらしい。
どうやら一つのイベントを片づけないとけないようだ。

ちなみにこの部屋？（私の精神世界らしいが）の中でしかスキルの習得や他の異世界への移動はできないみたいだ。まあ名前がないのも何なので、今後はマイルームとでも呼ぶ事にしよう。

4については、どうやら異世界で色々やつてるとポイントが貰えるらしい。

私はチートな能力は嫌いだけど、1万個あるスキルの中にはチートじゃない

能力も色々とあつたし、ちょくちょくスキルを増やしていくと思う。

以上が色々調べた結果理解した事だ。

ちなみに今から行くのは、ソードアート・オンラインの世界だ。
何故かって？ それは勿論面白そうだから。生前読んでいた時からこんなゲームがあるなら是非やつてみたいと思つてたんだよね。
ちなみになののはの世界にはちよつとまだ行けません。だってあの世界うつかりしていると人体実験とかされそうだし。あの世界に行くならせめてもうちよつと逃げたりするのに便利なスキルを取つてからにしたい。

ところが訳で早速異世界冒険の初チャレンジへGO！

新たなる世界への旅立ちなの（後書き）

正直今回取ったスキルは特にゲームの中では役に立ちません。と見せかけて、肉体の最適化の睡眠が必要なくなるのが軽くチートです。まあチートと言つても結局自分の努力が必要になるので、主人公的にはOKだったということです。ちなみに取つた理由としてはそれ、ちなみに取つた理由としてはそれ、

不老、老化は女性の敵！

肉体の最適化、肌の手入れもしなくていいし、睡眠時間まで要らないなんてまるで夢のよう。

といった具合です。

まずは熟練度稼ぎなの（前書き）

ソードアート・オンラインでのポイントボーナス

ボス撃破、敵撃破、スキル熟練度、最終レベル、最終コル

ゲームクリア、または死亡時に上記の内容から、それぞれ

スキル習得に必要なポイントが獲得できる。各上限は500ポイント、

つまり最大で2500ポイント取得できる。

まずは熟練度稼ぎなの

「ふう、流石に気が抜けませんね」

第一層のボスモンスターであるドーラゴンに己の拳を当てながら一人ごちる。

え？ タイトル詐欺？

いえいえ、今日は普通に正式稼働の日ですよ。
ちなみにまだデスゲーム開始の宣言も出されてません。
じゃあ何でいきなりボスと戦っているの？ 馬鹿なの？ 死ぬの？
とこう声が聞こえてくる気がしますが、勿論馬鹿じやないですし、
死ぬ気もありません。とりあえず何故こうこう状況になっているか
といつと、

ソードアート・オンラインの世界に出発したと思つたら、
現実世界じゃなくていきなりゲームの中に飛ばされた。
どうやら テスト中によつだつたので、色々と細かい
ところまで実験する。

スキルの熟練度が自分より強い敵、特にボスモンスター
相手だとかなりの速度で溜まる事に気がつく。

よろしい、ならばボスでレベル上げだ。

とまあこんな訳です。

実際この事に気づいてからはボス相手にひたすら練習していたから、
滅多なことでは攻撃は当たらないし、熟練度もどんどん溜まって

いくしで、これを1週間も続けてたらもう体術はマスターできそう。確か第1層をクリアするのに1ヶ月と少しかかったという話だから、とりあえず1週間で体術をマスターして、次の1週間でレベルを上げて、

その次の1週間で戦闘時回復のスキルレベルでも上げて、その後にドラゴン狩りとでも行くとしよう。ボス撃破のボーナスポイントも欲しいし。多分12～13レベルあればソロでも十分だろう。

ちなみに何故体術を選んだかというと、単純に好きだから。剣とかもいいけど、やっぱり体術がかっこいいよね。しかもリーチの問題とかで使い手が少ないのもグッド！ メジャーな武器よりマイナーな武器の方が使いたい、そんな乙女心？ を察してください。

ぶんっ！！

つと危な！ 考え事をしてたらうっかり爪に当たるといひだつた。まあ一発で死ぬことはないけど、さすがに気を引き締めた方が良さそうだ。

すると突然、リンゴーン、リンゴーンという、鐘のような　あるいは警報音のような大ボリュームのサウンドが鳴り響き、私の体をブルーの光の柱が包み込んだ。どうやら戦闘に集中していたせいで時間の間隔があいまいになっていたようだ。現在時刻を見てみると、17：30となっていた。ついにデスゲームの開始宣言が始まるか……。

念のため茅場の言葉を聞いていたが、どうやら原作との差異はない

ようだ。

それならもういいのは用はないし、またバスのところでも行つてくるかな。

はあつ……、また1時間もかけてボス部屋まで行かなきゃいけないのか……。

茅場工

まずは熟練度稼ぎなの（後書き）

現在のSAOでのスキルなど

レベル1（レベル差がある方がスキル熟練度が上がりやすいため）

体術（現在の熟練度30）

己の拳一つで戦う。

他の武器に比べリーチは短く攻撃力も低いが、
スキル発動前後の硬直時間が短い、

また、他の武器に比べ、AGIによるダメージ上昇の補正が大きい。

初期のスキルスロットは2つありますが、
体術上げたら何かエクストラスキルでも
出ないかなーと思って1つは空けています。

ちなみに短時間でこんなに上がるなら誰でも
スキルレベル上げするんじやない？ と思う
かもしけませんが、デスゲームになることを
見越して練習でもしてない限り、低レベルで
ボス相手にスキル熟練度稼ぎなんてできません。
十中八九途中で死にますし、危険度が段違い
なので普通のプレイヤーは知つてもスルーです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0233z/>

フェイト？ちゃんの転生記(SAO編)

2011年12月1日20時47分発行